

少しずつ始まる みその商店街の

変化とこれから

前川さんがみその商店街で開業したカフェは、多くの住民が訪れる人気店となっています。2022年10月には商店街の空き店舗を活用したイベントを開催し、みその商店街に関わる人々が「まちの可能性」に気付く機会になり、少しずつではありますがまちの風景が変わりつつあります。このようなまちづくり活動を通して、みその商店街を「人々が集まる場所」として、再び賑わいを取り戻すことが目標であると前川さんは語ります。ここ最近みその商店街の周辺では、駅前の立地を活かした再開発が進められています。このチャンスを活かして、みその商店街単体でまちづくりに取り組むのではなく、駅前エリアとしての広域でまちを見つめることで、まちの賑わいを取り戻す可能性は十分であると前川さんは語ります。

和歌山市への移住から約2年が経ち、まちづくりを行うための基盤が整ってきたと言う前川さん。みその商店街の変革に向けて、前川さんの挑戦はこれからが本番です。

関連資料ジャンルのご案内



料理 旅行 住まいと暮らし 美容・健康
ファッション スポーツ・アウトドア 趣味実用
音楽 **ビジネス** IT **ティーンズ** 文学
新聞・雑誌 **和歌山ことはじめ** 有吉佐和子文庫



総記 哲学・宗教 歴史 社会科学
自然科学 医学・薬学 技術・工学
産業 芸術 言語 **郷土資料**
参考図書 移民資料室



児童書

編集後記

今回は、和歌山市に移住しみその商店街の活性化に取り組む前川さん取材しました。落ち着きのあるお人柄の中に、移住者とは思えないほどの「まちの未来に対する期待感」をお持ちになっていると感じたことが印象的でした。

商店街から活気が失われつつある問題は日本全国で発生しており、その対策は各地で創意工夫されています。ただ、店舗の後継ぎ不足や施設の老朽化など、商店街をめぐる現況は厳しい状況が続いており、工夫による大きな成果を生んでいる事例はまだ少ない印象を受けます。前川さんからの話を伺う中で、みその商店街が和歌山駅前に立地している「最大の強み」と、前川さんが築く3つの土台を踏むことで、みその商店街は新たな1歩を生み出す可能性を大いに秘めていると感じました。

和歌山市の可能性を改めて感じた vol.9 となりました。

和歌山市民図書館

WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

〒640-8202 和歌山県和歌山市屏風丁17番地

TEL: 073-432-0010

開館時間: 9:00~21:00

図書館の詳細情報はこちらから



ホームページ



Instagram



facebook

ワザ
the
WAZA for Local

9

2023.1.1発行
TAKE FREE

みその2.0 新しい商店街のカタチ



取材協力: 前川怜輝さん

和歌山市民図書館
WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

移住者が切り拓くみその未来

Future of Misono

皆さんは、最近みその商店街を利用しましたか。かつては賑わいのあったみその商店街ですが、様々な要因によりその活気が失われつつあります。そんな中、みその商店街を起点としたまちづくりに取り組むために和歌山市に移住し、改革に取り組む若い移住者・前川怜輝(まえがわさとき)さんがいます。もう一度賑わいを創るために、前川さんが大切にしているワザに迫ります。



みその商店街の変遷

みその商店街は、戦後高度成長期の区画整理により1967年にJR和歌山駅の南側に開かれました。買い物客が市内・市外を問わず多く訪れる、和歌山市の賑わいの場として人々に親しまれていました。その多くの店舗では、店主の住居が店舗に併設されており、店主同士のつながりも強かったようです。

しかし、周辺の大規模小売店舗の出店や消費者人口の減少などの理由により、みその商店街を訪れる人は次第に減っていきました。そして建物老朽化や、店主の高齢化などの要因が絡み合い、今では営業店舗数がかつての2割ほどになるなど、賑わいが失われつつあります。



まちを動かす 熱意

前川さんは大学生の頃、やりたいことに熱中し、楽しむ先輩の姿に憧れたと言います。新しい取り組みをする際は、自分自身も熱意が周りを巻き込む力になるということに気付いたのです。そんな中、和歌山県有田市の無人島活性化イベントでみその商店街協同組合の理事長と知り合ったことが、前川さんの和歌山市移住の大きなきっかけとなりました。「みその商店街を何とかしたい」という理事長の熱意に共感し、前川さんの新しい取り組みがここ和歌山市で始まりました。

みその賑わいを取り戻す3つの土台

地域コミュニティとの 調和

前川さんは、まちづくりで最も重要なことは、今みその商店街で生活をする人々の暮らしを守ることだと言います。賑わいを取り戻すために新しい取り組みをすると、今の暮らしへの配慮が欠けてしまうことがあるかもしれません。しかし前川さんは「昔のことを踏襲しつつ、少しずつ未来のための取り組みを提案していくことが、住民の方々との協力体制を築く上で重要」と語ります。前川さんは、まちとの対話を続け調和しながら、少しずつ挑戦を進めています。



まちの可能性を高める 機運

前川さんは移住後、みその商店街を見て、まちに活がないことに気付きました。そこで、まちの賑わいを取り戻すためには、まちに関わる人々が一体となり取り組む“機運”を作ることが必要だと考えました。そしてまず取り組んだのが、みその商店街でのカフェとコワーキングスペースの開業でした。そこでの人々の会話から新たな気付きが生まれ、まちの可能性が更に広がっていくことを目指しています。



【前川怜輝(まえがわさとき)さんプロフィール】

滋賀県長浜市出身。和歌山市在住。株式会社 IKOTAS 代表取締役。
高校卒業時の自主企画・卒業ライブイベントをキッカケにイベントやまちづくりに興味を持つ。
その後京都市内でバンド活動しながら飲食店を運営していたが、コロナ禍を機に和歌山へ移住。
現在はみその商店街を中心とした和歌山市内のまちづくりに尽力している。

